

熊本城ホール VR化

仮想空間

崇城大の
古賀研究室



熊本城ホールを3次元画像化し、仮想空間で見学できるソフトを操作する崇城大の学生＝熊本市役所

崇城大工学部の古賀元也助教の研究室が、12月に開業する熊本市の大型集客施設「熊本城ホール」をコンピュータグラフィックス（CG）で再現し、仮想空間（VR）で見学できるソフトを開発した。21日、市役所1階にパソコン2台を置き、ソフトを体験できるコーナーを設けた。25日まで。

中央区桜町の再開発ビルの地下1階から7階に入るホールの内外観を3次元画像化。キーボードやマウスを操作することで、視点を自在に動かすことができる。メインホールでは約2300ある

市役所に体験コーナーも

客席を移動しながら、ステージの見え方なども確認できる。

「ゲーム感覚で、どんな施設が分かってもいいと思う」と古賀助教。ソフトは市から委託費325万円を受け、約2年かけて開発した。

古賀研究室などでつくった桜町・花畑地区の街並みのCGと合体しており、再開発の全体像も分かる。市新ホールマネジメント課は「視覚的に分かりやすく、ホールへの関心も高まるはず。イベント誘致にも活用したい」と話している。

（猿渡将樹）